

# 県内の情報連絡員報告 令和8年8月

石川県中小企業団体中央会

## 総括

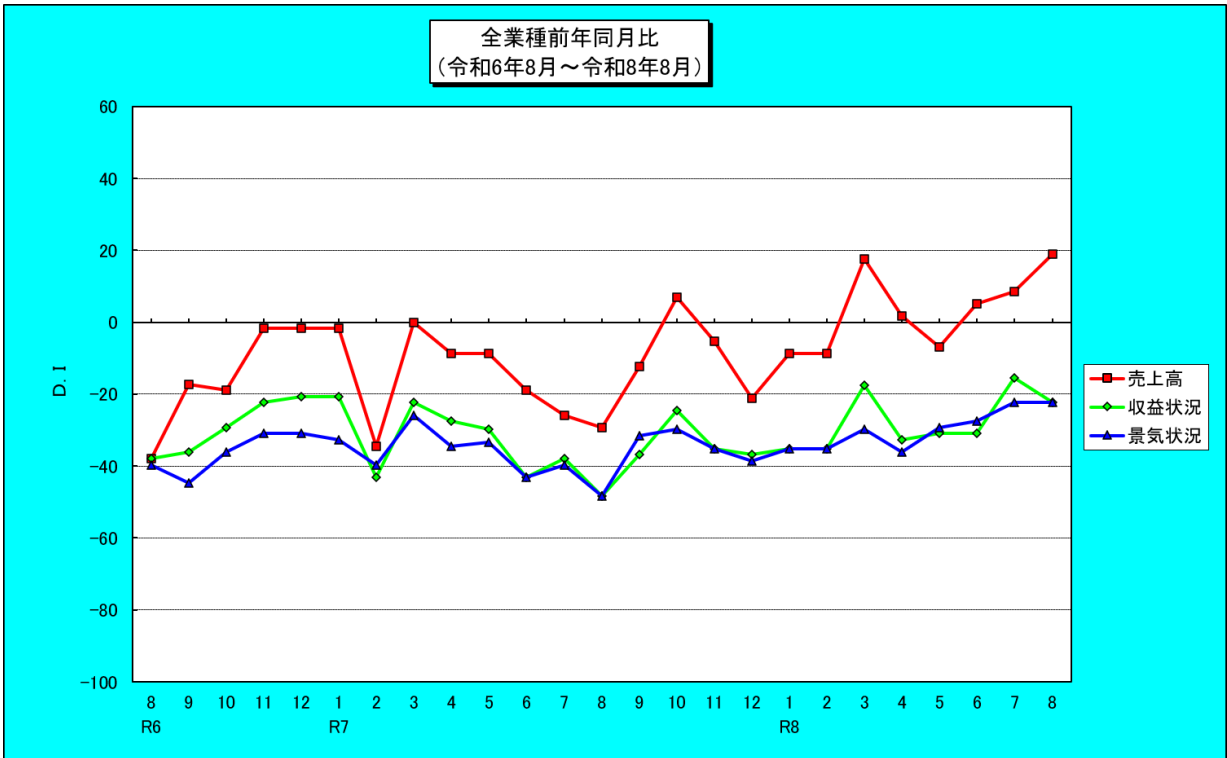
DI 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、9 項目中、**4 項目が上昇、2 項目が横ばい、3 項目が悪化**となった。売上高や販売価格が改善する一方、収益状況や雇用人員が悪化し、原材料・資材価格や人件費の上昇、人手不足等が経営上の課題となっている。**製造業**では、9 項目中、6 項目が上昇、1 項目が横ばい、2 項目が悪化となった。建設機械や半導体関連等の需要が堅調なほか、工作機械関連でも受注が増加するなど、生産活動に持ち直しがみられた。一方、原材料価格の高騰や人手不足により収益確保や増産対応が難しい状況も続いている。**悪化していた業種**は、主力のインテリア・カーテン分野の需要低迷や価格転嫁の難しさが続く**織物業**や、印刷需要の低下等により売上が前年並みで低調な状況が続く**印刷業**などであった。一方、**好調であった業種**は、半導体・AI 向け需要を背景に織布機械等の受注が堅調な**繊維機械製造業**や、自動車・工作機械・半導体関連等が堅調で前年同月比で売上が増加した**鉄素形材製造業**などであった。**非製造業**では、8 項目中、4 項目が上昇、4 項目が悪化となった。機械器具の更新需要や観光需要等がみられる一方、猛暑による消費低迷や燃料・仕入価格等の上昇が収益を圧迫している。**悪化していた業種**は、ガソリン販売数量の減少や販売価格の低下により売上・利益とも低下している**燃料小売業**や、暑さによる現場作業の遅れや材料供給の遅延等により売上高、収益状況ともに減少した**板金・金物工事業**などであった。一方、**好調であった業種**は、夏休みやポケモンによる集客効果により入込客数、売上高が前年を上回った**旅館・ホテル業（能登方面）**や、車検需要、新車販売台数とも前年を上回った**自動車整備業**などであった。

## 前月比の DI 値

| 項 目   | 全体 D I |         | 製造業 D I |         | 非製造業 D I |         |
|-------|--------|---------|---------|---------|----------|---------|
| 売上高   | 19.0   | ( 10.4) | 25.8    | ( 3.2)  | 11.1     | ( 18.5) |
| 在庫数量  | -12.8  | ( 0.0)  | -22.6   | ( 3.2)  | 6.3      | (▼ 6.2) |
| 販売価格  | 34.5   | ( 8.6)  | 35.5    | ( 12.9) | 33.3     | ( 3.7)  |
| 取引条件  | -5.2   | (▼ 1.8) | 3.2     | ( 3.2)  | -14.8    | (▼ 7.4) |
| 収益状況  | -22.4  | (▼ 6.9) | -12.9   | ( 0.0)  | -33.3    | (▼14.8) |
| 資金繰り  | -10.3  | ( 3.5)  | -6.5    | ( 3.2)  | -14.8    | ( 3.7)  |
| 設備操業度 | 12.9   | ( 3.2)  | 12.9    | ( 3.2)  | -        |         |
| 雇用人員  | -13.8  | (▼ 3.5) | -22.6   | (▼ 3.2) | -3.7     | (▼ 3.7) |
| 業界の景況 | -22.4  | ( 0.0)  | -12.9   | (▼ 3.2) | -33.3    | ( 3.7)  |

※1：( ) 内の数字は前月とのポイント差 (▼は減少) ※2：設備操業度は製造業のみ

## 全業種の前年同月比推移



## <製造業>

| 集計上の<br>分類業種 | 具体的な業種                   | 組合及び組合員の業況等                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食料品          | パン・菓子<br>製造業             | 夏休み期間中は学校給食の供給がなく売上が減少する一方、必要経費は継続して発生するため、製造企業の事業継続に向けた支援や補償が望まれる。業況については大きな変化はない。                                                                                                                                                                 |
|              | パン・菓子<br>製造業             | 夏休み・旧盆シーズンであったが、売上高、収益状況ともに例年並みで推移した。一方、原材料・副資材や燃料価格の上昇により、今後、販売価格の値上げを余儀なくされる状況となっている。                                                                                                                                                             |
| 繊維工業         | 織物業                      | 主力であるインテリア・カーテン分野の需要は減少傾向にある。原材料等の大幅な値上がりによるコスト増加に対し、繊維製品の工賃への適正な価格転嫁は難しく、高級分野においても売価や加工費の引上げが困難な状況である。産地をけん引してきたインテリア・カーテン分野の需要低迷が続いていることから、9月以降の需要期における消費回復が期待される。                                                                                |
|              | 織物業                      | 前年同月比で、生産は絹織物が16%減少、合繊が2%増加し、全体では2%の増加となった。一方、絹織物の生産は低調で、収益状況も全体的に良くない。                                                                                                                                                                             |
|              | 織物業                      | 本県の織物生産高は12カ月連続で前年を下回った。品種別では、ナイロンが前年対比6.8ポイント増加した一方、ポリエステルは13.0ポイント減少し、織物全体では5.7ポイントの減少となった。                                                                                                                                                       |
|              | その他の織物業<br>(染色加工)        | 前年同期比で売上高は約10%減少し、それに伴い収益状況も厳しい状況となっている。着物全体の売上が低下する中、特にフォーマル分野の低迷が顕著である。今後も状況の改善は見込みにくく、新たな商品開発や販路開拓が必要となっている。                                                                                                                                     |
|              | ねん糸等製造業                  | 売上高は横ばいの事業者が多いものの、微増した事業者もみられる。一方、収益状況は悪く、主な要因として電気代の高騰が挙げられる。                                                                                                                                                                                      |
| 木材・<br>木製品   | 製材業、木製品<br>製造業<br>(加賀方面) | 8月の売上は前年同月とほぼ同水準であるが、中小・小規模工務店では仕事が少ない状況が続いている。中東情勢による原材料等の供給制限は緩和されつつあるものの、価格上昇は続いており、集成材用接着剤は約20%、乾燥機用重油は約30%、それぞれ価格が上昇したままである。また、住宅価格の上昇を受け、住宅購入者は坪数を減らしたり、2階建てから平屋に変更するなど、建築費を抑える動きがみられる。                                                       |
|              | 製材業、木製品<br>製造業<br>(能登方面) | 8月の取扱量は947.225 m <sup>3</sup> で前年同月比6.2%減少した一方、売上高は16,364千円で前年同月比8.0%増加し、平均単価も15,004円から17,276円に上昇した。新材の入荷が増加し、品質の良い材が多く並ぶようになったことで買い方の反応も良く、価格も上昇している。樹種別では、スギの平均単価が12,816円から12,743円となった一方、アテは21,705円から25,038円に上昇した。お盆以降の入荷・価格の改善を受け、今後の秋需要に期待している。 |
|              | 製材業、木製品<br>製造業<br>(金沢方面) | 8月は盆休みによる稼働日数の減少から前月比で売上が減少したものの、販売価格の改定により前年同月比では売上高が増加した。資材価格の上昇が続く中、適正な販売価格の確保が重要となっている。また、見積案件は増加しており、見積から受注への転換率を高め、9月以降の売上・稼働率の回復につなげることが課題である。                                                                                               |
| 印刷           | 印刷業                      | 売上は前年並みで低調な状況が続き、印刷物の出荷量も種類・数量ともに減少傾向にある。収益は価格交渉の結果、改善する場合もあるものの不安定である。熊本地震による日本製紙工場の被害により、原材料等が全損となり、工場再建の見通しも立っていないことから、今後の印刷用紙の流通への影響が懸念される。また、印刷需要の低下や印刷資材の価格高騰を                                                                                |

|         |                  |                                                                                                                                                                                                                               |
|---------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                  | 背景に、小規模な印刷会社を中心に自社の印刷機を処分し、ネット印刷等を利用する動きがみられる。                                                                                                                                                                                |
| 窯業・土石製品 | 碎石製造業            | 8月の出荷量は前年同月比で、生コン向けが6.8%増加、合材用アスファルト向けが41.8%減少し、スポット分を含む全出荷量では2.3%の増加となった。今後は、ダンプの逼迫や人材確保が懸念される。                                                                                                                              |
|         | 陶磁器・関連製品製造業      | 前年同月比で売上は大幅な減少傾向にある。主な要因として、中国需要の激減に加え、大雨等の自然災害による観光需要の減退が挙げられる。今後予想される物価高や人件費の増加に伴う価格転嫁についても、不安が大きい状況である。                                                                                                                    |
|         | 生コンクリート製造業       | 8月の出荷量は前年同月を上回った。能登半島地震からの復旧・復興工事に加え、道路・河川改修等の公共工事が主な要因となっている。                                                                                                                                                                |
|         | 碎石製造業            | 8月の売上高は3,250万円で、公共事業や産業用地造成によるものである。                                                                                                                                                                                          |
| 鉄鋼・金属   | 一般機械器具製造業        | 前月比で業況が好転する企業が増加傾向にある一方、人手不足を要因として、高まる需要に生産・供給が追いつかない企業もみられる。先行きの不透明感も残っており、機会損失や労務負担の増大が懸念される。                                                                                                                               |
|         | 非鉄金属・同合金圧延業      | 外国人観光客は引き続き好調で、金箔貼り体験も人気となっているものの、商品の売上にはつながりにくい状況である。原材料である金地金価格は高止まりしているものの下落基調にあるが、金箔需要の拡大には至っておらず、業界全体として厳しい状況が続いている。                                                                                                     |
|         | 鉄素形材製造業（鉄鉄鋳物の製造） | 8月の売上（生産量）は前月比22.7%減少した一方、前年同月比では9.9%増加した。自動車関連、工作機械関連、インフラ（水道）、半導体関連などは堅調に推移している。                                                                                                                                            |
|         | 鉄素形材製造業          | 建設機械業界は好調で増産傾向にあるほか、半導体装置や造船関係の需要も増加している。一方、人手不足により増産への対応が難しくなっており、零細企業では働き方改革による労働時間短縮や割増賃金等により、受注単価との不一致が生じている。賃金・物価・金利の上昇と受注単価との乖離が拡大する中、9月から丸棒が10～20円/kg値上げされることから、工具・油類を含めた価格交渉が必要となっている。                                |
|         | 一般機械器具製造業        | 建設機械大手メーカーの建設機械・車両の需要は増加しており、今後も前年を上回る需要が見込まれている。地元工場の高操業を受け、組合員企業でも取扱機種によって受注が増加し、高操業となっており、下期も継続すると見込まれる。一方、円安や中東情勢の長期化による原材料・エネルギー価格の高止まりに加え、借入金利や人件費の上昇も収益を圧迫する要因となっており、早期の価格転嫁が求められる。                                    |
|         | 一般産業用機械・装置製造業    | 売上は回復の兆しがみられるものの、原材料等の価格高騰により収益状況は依然として厳しい。建設関連は若干動き始めたものの、低調な状況が続いている。一方、半導体装置、工作機械、ロボット関連の受注は堅調であるが、必要な部品・機器の納期が長期化する傾向にある。                                                                                                 |
| 一般機器    | 機械、機械器具の製造又は加工修理 | AI需要に伴うデータセンター建設の加速により、半導体関連の受注増加が続いている一方、中国企業の増産や特需の継続性への懸念から、大規模な設備投資には慎重な動きがみられる。石油由来原料の価格高騰はやや落ち着いているものの、その他の原材料価格の上昇や最低賃金の引上げがコスト増要因となっている。また、航空機関連では機体更新需要により部品需要が伸長し、他業種でも受注の回復基調が続いているが、資材調達難により受注が生産・出荷につながらない懸念がある。 |
|         | 機械金属、機械器具の製造     | 全体的に業況は安定している。                                                                                                                                                                                                                |

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 繊維機械製造業                    | <p>工作機械関連の上半期（1～6月）の受注は、内需が前期比127%、外需が前年同月比128%と増加した。地域別では北米が120%、欧州が103%、アジアが145%増加し、特に中国・インドがアジアをけん引した。繊維関連では、半導体・AI向けガラス基布の需要が増加し、織布機械は約1,000台のバックオーダーを抱えるなど、受注は堅調である。工作機械本体の上半期受注高も1兆550億円を超え、周辺機器についても今後の受注増加が期待される。一方、納期対応や品質管理の徹底が引き続き求められている。</p>       |
| 機械金属、<br>機械器具の製造           | <p>今後の受注は堅調との見通しを持つ企業が増えている。半導体関連はAI需要により多忙となっており、繊維機械関連では合成繊維用に加え、ガラス繊維用の機械部品の受注も増加している。建設機械、工作機械、自動車関連も取引機種によって差はあるものの、全体的に上向いている。一方、原材料価格の高騰により収益状況は厳しい。</p>                                                                                                 |
| 機械器具及び其<br>の他<br>金属製品の製造   | <p>前月比では、売上高・採算性・業績状況が4社で悪化し、前年同期比では業績状況が4社で悪化した。見通しは全項目で横ばいとなっている。部門別では、輸送機器で売上・採算性・従業員数・業績状況が悪化し、電気機械でも売上・採算性・業績状況が悪化している。一方、繊維機械は売上・業績状況が前月比、前年同期比、見通しのいずれも改善している。人件費の上昇や人手不足は引き続き課題となっている。</p>                                                              |
| 機械金属、<br>機械器具の製造           | <p>鉄工業界では、受注が想定を上回る動きとなるなど明るさがみられる一方、原材料費・エネルギー価格・人件費の高止まりや価格転嫁の難しさから、収益環境は大きく改善していない。中東情勢をはじめ海外情勢の先行きが不透明な中、原油価格や物流コストへの影響も懸念される。また、物流業界における人件費・燃料費・車両維持費の上昇や人手不足も、製造業のコスト増加要因となっている。</p>                                                                      |
| 機械金属、<br>機械器具の製造<br>又は加工修理 | <p>売上高は前年同月比で2桁の増加が見込まれ、高い水準での操業が続いている。主力取引先では9月以降も第3四半期にかけて増産基調が続く見込みで、組合員企業でも生産状況が逼迫しており、人員確保など高操業に対応した体制整備を進めている。資材価格や人件費の高騰は続いているものの、概ね価格転嫁が進んでいる。主力取引先の仕向け地別の景況感にはばらつきがあるものの、全体として好調に推移している。</p>                                                           |
| 漆器製造業<br>(能登方面)            | <p>新規注文は引き続き少なく、職人に回る仕事も少ないことから、先行きが懸念される。一方、観光面では石川県のキャンペーンによる団体ツアーの受入れがみられるものの、奥能登で参加できる施設が少なく、観光需要の取り込みに課題がある。</p>                                                                                                                                           |
| プラスチック<br>製品製造業            | <p>7月以降、全体的に供給の引き締めは緩和しているものの、ABS樹脂など一部材料では大量購入が優先され、小口発注が中心の中小企業では入手しにくい状況が続いている。一方、長期的な取引関係のある仕入先からは比較的確保しやすい状況である。また、タングステンの輸出制限により日本製の金型加工用精密ツールの安定確保に懸念があるほか、梱包用ビニール袋の調達にも難航している。受注は時期や製品による変動が大きく、住宅建材向けが落ち込む一方、住宅機器メーカーからの受注は増加するなど、先行きが見通しにくい状況である。</p> |

＜非製造業＞

| 集計上の<br>分類業種 | 具体的な業種                  | 組合及び組合員の業況等                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卸売業          | その他の卸売業                 | 今月の売上は前年同月比 64%と大幅に減少した。中国需要の激減に加え、猛暑による九谷焼の国内需要の落ち込みが影響している。また、金・銀製品の価格高騰により商品価格の維持が困難となるケースもあり、九谷焼業界は厳しい状況にある。                                                                                                                |
|              | 一般機械器具<br>卸売業           | 住宅市場は依然として回復に至っていないものの、非住宅市場では LED 照明器具やエアコン等のリニューアル需要が引き続き好調であり、売上・収益ともに前年水準を維持している。                                                                                                                                           |
|              | 各種商品卸売業                 | 前年と比較して、売上が増加した事業者が 4 分の 1、減少した事業者が 4 分の 1、横ばいが 2 分の 1 となっている。収益状況は、1 割が好転、2 割が悪化、残りの 7 割が横ばいとなっている。                                                                                                                            |
| 小売業          | 燃料小売業                   | 8 月のガソリン販売数量は前年同月比で減少し、販売価格も低下したことから、売上・利益ともに低下傾向にある。燃費性能の向上や EV 等の電動化に加え、ガソリン需要自体も低下傾向にあり、業界の景況は悪化している。また、人手不足も深刻な問題となっている。原油価格はホルムズ海峡問題の影響により 1 バレル 80～90 ドル台で推移しているが、ガソリン価格は補助金により全国平均 170 円/ℓ 程度で推移しており、当面は補助金が継続される見込みである。 |
|              | 機械器具小売業                 | エアコン・照明は、2027 年問題による需要もあり、売上・収益ともに好調である。一方、一部商品の入荷状況が悪く、販売機会に影響している。猛暑による季節家電の需要がみられたものの、物価高騰の継続により高額商品の買い控えもみられ、仕入価格の上昇分を販売価格へ十分に転嫁できず、収益を圧迫している。また、ナフサ問題によるエアコン・照明の入荷遅れも続いている。                                                |
|              | 男子服小売業<br>婦人・子供服小<br>売業 | 連日の 30 度以上の猛暑や大雨等による来店客数の減少から、売上は前年対比 97.7%となった。食料品、光熱費、生活必需品等の価格上昇が続く中、衣料品の購入を先送りする動きもみられる。今後は、価格に見合う機能性・品質に加え、着る楽しさや長く使う価値など、消費者が購入する理由を含めた商品提案が求められている。                                                                      |
|              | 鮮魚小売業                   | 組合店舗の 8 月の売上高は前年を上回ったものの、物価上昇による販売価格の上昇が主な要因となっている。原油価格の上昇を背景に、食品トレイやビニール袋等の資材価格や光熱費も上昇している。お盆時期は帰省者や観光客が多く、刺身盛り等の需要もみられた。一方、魚の水揚げ量は例年より少なく、魚種にも変化がみられている。価格上昇や魚の入荷量減少に加え、資材・光熱費等のコスト増加が続いており、収益確保が難しい状況である。                    |
|              | 百貨店・総合ス<br>ーパー          | 8 月の売上高は前年同月比 93.6%、客数は 92.5%となった。部門別では、ファッション 83.3%、服飾・生活雑貨 80.3%、食品 104.1%、飲食 111.6%、サービス 89.0%となった。                                                                                                                          |
|              | 茶類小売業                   | 8 月は例年売上が落ちる時期であるが、9 月からの値上げを前にした駆け込み需要や、敬老の日の粗品としてのお茶の需要が売上を支えた。一方、茶の仕入価格や加工賃等が上昇しており、値上げを実施したものの、コスト増加分を吸収できるかが課題となっている。抹茶の需要拡大に加え、その他の茶も供給面の問題から価格が上昇している。生活習慣の変化により家庭で茶を入れる機会が減少する中、茶教室や観光需要などが新たな市場となっている。                 |
|              | 近江町商店街                  | 8 月はお盆期間を中心に集客が堅調で、夏休み期間中の来場者も増加した。一方、天候不順による仕入価格の高騰や欠品に加え、人件費等の経費も増加しており、増収傾向にあるものの                                                                                                                                            |

|       |                  |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |                  | 減益となっている。8月20日～29日に開催した絵画コンクールでは、作品を観覧する家族連れが例年以上に多くみられた。                                                                                                                                                                                                    |
|       | 白山市商店街           | 8月は多くの組合員店舗で売上高が前年を上回っているものの、仕入価格の高騰により収益状況にはばらつきがみられる。商店街の業況は概ね良好であるが、従業員不足や体調不良を理由とした閉店も発生している。一方、閉店店舗には次の入居希望者が決まっている。また、後継者不在や世代交代に伴う不動産処理が複数発生しているが、徐々に解決に向かっていく。                                                                                       |
|       | 片町商店街            | 8月は例年売上が落ち込む時期であるが、週末を中心に外国人観光客を含む観光客の来訪があり、一定の集客がみられた。一方、原材料・仕入価格やガソリン等の燃料費の高騰が収益を圧迫しており、販売価格の見直しが必要となっている。販売価格は上昇しているものの、アパレルではセール期間と重なることから売上は横ばいとみられ、収益状況は諸経費の上昇等により悪化している。                                                                              |
|       | 竪町商店街            | 8月後半に降雨があったものの、概ね天候が安定し、インバウンドを中心に集客は順調であった。一方、8月8日夕方の大雨により、開催中のイベント後半は来場者が伸びなかった。また、夏季には夜間の不法駐車やスケートボード、キックボード等による通行が増加している。                                                                                                                                |
| サービス業 | 旅館、ホテル<br>(金沢方面) | 酷暑の影響もあり、インバウンド需要は伸びていない。客室稼働率はホテルで80%弱、旅館で60%弱にとどまっている。                                                                                                                                                                                                     |
|       | 旅館、ホテル<br>(加賀方面) | 8月は予約の発生が遅く、旧盆前後に予約が集中する傾向がみられた。天災や猛暑による外出控えが影響しているとの声もある。消費単価は微増しているものの、旅館関連の仕入価格や人件費の上昇により収益改善につながりにくい状況であり、業務の効率化が課題となっている。また、加賀温泉郷では外部資本の参入による影響を指摘する声もある。                                                                                               |
|       | 旅館、ホテル<br>(能登方面) | 繁忙期である8月はファミリー層の利用が多く、客室稼働率が高まった。お盆以降は平日を中心にインバウンド観光客の来訪が目立ち、欧米を中心とした個人客の増加がみられた。猛暑が続いたものの、観光客の入込や温泉街での観光消費への影響は限定的であった。当月の温泉地全体の宿泊実績は前年同期比112.4%と増加したが、昨年及び当月に新規開業した旅館による上積みが大きな要因であり、新規開業旅館を除く実績は102.4%と微増にとどまった。お盆期間は各旅館とも前年並みの宿泊実績であったほか、日帰り観光客の増加もみられた。 |
|       | 自動車整備業           | 車検需要は29,157台で前年同月比104.7%となり、登録車が105.7%、軽自動車が103.1%といずれも前年を上回った。新車販売台数は3,409台で前年同月比107.3%となり、5カ月連続で前年を上回った。内訳では登録車が25.2%増加した一方、軽自動車は15.8%減少し、2カ月ぶりに前年を下回った。                                                                                                   |
| 建設業   | 板金・金物<br>工事業     | 暑さによる現場作業の遅れに加え、夏季休暇や熱中症予防対策により作業時間・日数が減少し、工事の進捗が鈍化している。物価高や材料供給の遅延も続いており、売上高、収益状況ともに減少した。                                                                                                                                                                   |
|       | 管工事業             | 中東情勢の影響により資材の入手が困難となり、工期が延長しているケースがみられる。また、技術者不足により工事の受注が難しい状況となっている。                                                                                                                                                                                        |
|       | 一般土木建築<br>工事業    | 人材確保に向けた施設視察や、外国人材の就労制度見直しに関する勉強会を実施した。7月の建設工事受注高は、民間工事では土木の元請が前年同月比206%、下請が156%、建築の元請が186%、下請が95%となった。官公庁工事では、土木の元請が73%、下請が54%と低調で                                                                                                                          |

|     |                 |                                                                                                        |
|-----|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |                 | ある一方、建築は元請 134%、下請 700%と大幅に増加した。民間土木は前月から持ち直したものの、官公庁土木は依然として低調であり、官公庁建築は前年を大幅に上回る発注が続いている。            |
|     | 一般土木建築<br>工事業   | 主な業種である公共事業について、当初の年間予算額は昨年度と同程度である。一方、令和 6 年能登半島地震の復旧・復興に向け、金沢市内で災害復旧工事が本格化しており、今後の受注高は増加傾向にあると推測される。 |
| 運輸業 | 一般貨物自動車<br>運送業① | 中東情勢による影響はあるものの、運行量は前年と同水準であり、売上高も同程度で推移した。一方、燃料価格の高騰により、収益は 15%程度減少した。                                |
|     | 一般貨物自動車<br>運送業② | 前年同月比 6.3%減、前月比 28.8%減となった。8 月は前年も前月比 26.8%減と低調であり、盆による季節的な要因もあるものの、全般的に厳しい状況が続いている。                   |